

# 教授宅母娘刺殺で鑑定留置

## 無職男「刑務所戻りたい」

【東京・新宿】新宿区内の大学教授宅で母娘2人が殺害された事件で、東京地検は2月28日までに、殺人容疑で逮捕・送検された無職の谷口忠雄容疑者(37)について、刑事責任能力の有無を調べるため、鑑定留置を開始した。捜査関係者への取材で分かった。事件は昨年12月23日午後、東京都新宿区沈丁花町の住宅街で発生した。午後1時過ぎ、帝

栄学館大学理学部教授・茂木賢治朗さん(63)の自宅に、谷口容疑者が侵入。室内にいた妻・幸代さん(61)と長女・恵子さん(30)を刃物で刺し、2人はまもなく死亡が確認された。

谷口容疑者は現場から逃走せず、通報を受けて駆けつけた民間のホームセキュリティ会社が現行犯逮捕した。取

の警備員により、家の中で取り押さえられた後、駆けつけた警察官が現行犯逮捕した。取



り調べに対し谷口容疑者は、「働きたくなかった。刑務所に戻りたかった」「偉い学者の家なら罪が重くなると思った」と供述。また、「刑務所で『二人までなら死刑にならない』と聞いた」とも話しており、計画性や動機の異常性が指摘されている。茂木教授は当時、学会関連の外出中で無事だったが、突然の悲報に言葉を失ったという。教授は細胞生物学を専門とし、長年にわたり基礎研究に従事してきた。事件の背景には、容疑者の孤立や生活困窮があった可能性もあり、警視庁は引き続き動機の全容解明を進めている。東京地検は2月下旬、谷口容疑者の精神鑑定を実施するため、東京地裁に鑑定留置を請求。裁判所がこれを認め、今後数カ月間、専門医による精神状態の確認が行われる見通し。地域住民からは「あまりに理不尽な事件。誰でも被害者になりうるという恐怖を感じる」との声も上がっている。